第４回柴田町新図書館建設検討委員会　議事要旨

日時　令和５年 12 月 22 日（金）午後２時から
場所　保健センター　４階　多目的ホール

１　開会

２　開会のあいさつ

３　議事
協議事項
（１）　柴田町新図書館基本構想（素案）について
●第１章部分
委員：１ページの５行目等の「取組」について、「り・み」の有無の統一を図った方が良いと思う。他は、取り組むことについては「取組」、取り組みます等は「取り組み」となっている。
事務局：統一させていただく。

●第２章（各種データ）部分
委員長：アンケート結果については、全部載せているというわけではないのか。
事務局：おっしゃる通り、いくつかの設問について記載している。全てを載せるとページ数としても大きくなってしまうので、課題や方向性に関連するところを中心に記載している。
副委員長：５・６ページの人口と就業状況について、図書館とは関係ないところかもしれないが興味深く見ていた。人口について、老年人口が増えて生産年齢人口が減っているのにも関わらず、就業者数については増加している。これは 65 歳以上の方であっても働いている人が増えているのが要因としてあるのだろうと思った。人口から就業者数を引いた働いていない人の人数が、５年間で 2,000 人ずつくらい減っている。昔は退職した後に次の仕事をするという人が半々くらいであったが、今は退職した後も働くという人が多くなっているのだろう。正職員のような形ではなくても、半ばボランティアのような形で働く方もいるのだろうと思う。
高齢者が高齢になっても働くことは、健康寿命の延伸としても大事なこと。高齢者の働き手を増やしていくことは、高齢者本人のためでもあるし、もちろん公的にも、ボランティア等の人員としてとても大切な存在。図書館のレストランやカフェ機能の部分で、営利として続けていくことの困難さが課題となっているが、こういった高齢者の力を活かした取組を進めることで、道が開ける可能性もあると思う。高齢者のからまりしろとして、事業を考えていければいいなと思う。
委員長：統計のデータに関して、就業する方の割合が増えていることは確かな事実であると思う。計画書としては、このページはデータの整理の部分であると思うが、そのあたりからみえてくるものについては、記載としてはどのようにしていく形がよいか。
事務局：こちらのデータのページには、あくまでもデータとしてこういった状況であることを示す形とさせていただき、データ等からみえてくるものについては、かだいや方向性を整理する箇所にて、記載を検討していければと思う。

委員長：データの部分には、人口に対する就業率の割合を記載するのも、１つ分かりやすくなるための方法かと思う。検討してほしい。

副委員長：分類不能が増えている。この分類不能はどういった産業なのか。

事務局：町のこの分類不能がどういった産業なのかというデータはないが、大きくはこれまでの産業大分類で分類できない新たな産業に関してはこちらの分類不能に区分されているところ。

副委員長：柴田町は６次産業をしているところも多い。そういった部分がここに入ってくる可能性もあるのかなと思う。

●第２章（課題と今後の方向性）部分

委員：レファレンスの後の（　）に記載のある内容についてページによって異なるので、統一を図った方が良いと思う。

事務局：レファレンス（調べもの相談）が、サービス要覧等でも用いられている形となるので、こちらに統一させていただければと思う。

委員：別のページに記載のある「調査相談」という言葉は、図書館用語でもあるので、一般の方には分かりにくい表現となっていると思う。表現について見直しをお願いしたい。

18 ページの（５）の新図書館の方向性に「保存するだけでなく、あらゆる機会に圏内外に向けて情報発信する必要があります」とある。この圏内外の圏内とはどこを指すのか。仙南圏のことか、それとも宮城県全体のことをさすのか。

事務局：事務局としては仙南圏を考えているが、その部分が伝わらないと思うので、表現について調整させていただく。

アドバイザー：16 ページに記載の「市民ニーズ」は、一般的な言葉として、住民のニーズを指す言葉で使われるものであるが、「市」「町」の違いと思われることも考えると、「住民ニーズ」の方が誤解を招かないかもなと思う。

委員長：課題としてまとめている文章の中に「ワークショップ」という文言が出てくるが、これはプレイスデザインワークショップのことを指しているのか。もしそうだとしたら、このワークショップに関する意見は図書館だけではなく、ゾーン全体の意見も含んだものになっている可能性がある。そのあたりは一定整理が必要なのではないかと思う。

事務局：おっしゃる通り、最後の付属資料までいかないと、このワークショップがプレイスデザインワークショップであるとわからないので、分かりやすい表現を調整させていただく。また意見内容についても、ゾーンに関するものか、図書館に関するものかの精査もしていければと思う。

委員：P17 の（４）の部分に、社会包摂的なこと、ＳＤＧｓに関する内容が書かれているけれど、環境づくりという部分がぼやっとしているように感じる。ここで触れられているのが、空間や建物的な部分になっていて、バリアフリーやユニバーサルデザインに関するものかと思うが、社会包摂的な、「誰一人取り残さない」の言葉に関連するものはソフト事業的な部分にも関連するのではないかと思う。ここは、環境という言葉でぼやかさないで、さらにつっこんで書いてもいいのではないかと思うので、検討してほしい。

そこに関連するのが、８ページだと思っていて、ここのサービス一覧に記載のあるように、今の図書館で取り組んでいること、たくさんある。情報として対象者別に整理されているが、これらの事業が何のために行われているのかが明確になるともっと分かりやすくなるのではないかと思う。これらの事業がなんのために行われていて、そしてその事業を布石として進化して次につながるよう

な、補足があってもいいと思う。

委員長：ＳＤＧｓの考え方を、ハード面につなげるだけでなく、ソフト面にもつなげていく視点が必要なのではないかという意見だったかと思う。

アドバイザー：その考え方をこの部分に取り入れるのであれば、（４）のタイトルを再考する必要も出てくると思う。環境づくりの言葉は、建築や建物を意識した言葉だろうと思う。ソフト面も含めて考えていく必要があることは間違いないけれど、この部分にソフト面を含めるというのであれば、文言の修正だけで終わる話ではなく、大幅な変更が必要になるだろうと思う。そのあたりも含めて、考えていく必要がある。

委員：アンケート結果の中に、返却する時間やタイミングがないという意見があったかと思うが、実際に返す場所がないのが現状だと思う。予算として確保できるのであれば、返却ポストの設置を検討してほしい。返却ポストが駅などにあれば、日曜日に借りて平日に駅で返すような利用ができるようになる。新図書館建設前の今の段階からできることとしてもやっていってほしいと思う。

委員長：利便性の向上に関わる部分になるかと思う。今ここで対応の可不可を話すことは難しいと思うが、検討していってほしい。アドバイザーの方で、これまでの部分について、何かあればお願いしたい。

アドバイザー：ここについては文言に関する修正があるのだが、それは事務局の方に直接伝えようと思う。貸出の文言の基準に沿った表現等について、後ほど伝えさせていただく。

●第３章部分

委員：イメージ図に関して、３つの項目が丸で示されているが、「地域の未来を拓く」がゴールになっている印象を受ける。地域の未来を拓かない方でも図書館は利用していいと思うし、そこを目指すようなイメージがぬぐえない。１つ目を「出会う」にして、３つを同列にする等の表現の調整をお願いしたいと思う。

委員：私もそう思う。色のグラデーションがあることで、より一層そのイメージが強くなっているのではないか。一色にした方が良いかもしれない。色が違うと、どうして色が違うのだろう、と意識してしまうものなので、シンプル化してもいいと思う。

イメージ図については、桜という意見もあったと思う。参考資料の１のような形であれば、丸の３つは三角形にしても良いかもしれない。

委員：これまでの議論の中でグラウンドという言葉に違和感がある等の意見があり、無くなってもいいのではという流れの中で今の理念になってきたと思う。その中で種から花が咲くという意味合いのこのイラストは不自然なのではないか、必要性がないように感じる。この種から花への流れが示すものはＰＤＣＡのサイクルのことか、それとも花の町として、人の成長の意味として使っているのか。また、種から１本の花しか咲かないことも心もとない印象。目指すものとして図にしたときに１本では弱い。この図では何を目指しているのか分かりにくい。花の町という部分を強調するのなら、モチーフは桜がいいと思うし、桜という木が成長したり、葉を落としたり、花を咲かせたりするのは、計画の進行の試行錯誤と通ずるものがある。開花情報としても、一分咲きのような表現としても、良いと思い桜の提案をしているところ。さらに、植物についても、ガーデンのような絵の方がイメージしやすいと思う。

委員長：こういった図は、言葉として共有できないところも示していくようなものとして活用していけると良い。意味を広く持てるような、絵になるといい。

委員：人がつながることも必要な視点。桜の周りに人を配置して、桜の成長とともに人の輪も広がっていくようなイメージがあると良い。

委員：種から花のこのイラストが良くないのだと思う。実際にイラストとして活用していくのであれば、コンセプトに沿った形でデザイナーに依頼した方が良いと思う。

副委員長：基本方針が５つある。その１つ１つに対して１つの花があるといいかもしれない。それぞれの花が集まってガーデンになるようなイメージ。１つの花だけなのは、私もさみしいと思う。

委員長：多様性を示す形としては、いくつかの花があることも良いと思う。

アドバイザー：委員の皆さんがおっしゃるような、図書館としてのモチーフ・アイキャッチは、今後プロにお願いして作っていくことになるのではないかと思う。他の図書館等でも最近は多くのところでそういったものを作っている。

ここで示しているのは、そういったものではなく、理念図。デザイン図ではないのでそういったものとは別物として考える方が良いと思う。

しかし、委員の皆さんの意見もその通りで、３つの丸に関して、本に出会わなくても次には行けるし、ステップアップ的な意味合いはない方が分かりやすい。今回、理念がキャッチフレーズ的なものになっているから、それとの整合性という形でこの３つがあるのであろうが、図としての説明不足感もある。また、キャッチフレーズの下の説明は冗長な部分もある。整理は必要かもしれない。

●第４章部分

委員：23 ページに記載の、開架と閉架図書の割合について、新聞や雑誌はすぐに閉架になると聞いた。新聞や雑誌の保存期間によって、閉架に必要な面積は変わってくるだろう。新聞雑誌の数で開架閉架の数を決めるのも良いと思う。

委員長：新聞や雑誌の方向性についても、一定書いていくのも良いかと思う。

アドバイザー：基本構想には、そこまでの細かいところまでは書かないことが多い。そういった部分まで詳細に決めて、全部書いていくのは設計段階以前では難しい。

それよりも、今は図書の割合についてこれで良いのかという視点で検討を行う方が重要。児童書が４割となっており、全国的な平均としては、４割弱、３割後半くらいなので、４割は少し多め。ヤングアダルトをどちらに含めるかにもよるが、そういった割合がこれで良いかという部分を協議いただいた方が良い。

委員：児童書と絵本の割合が１対１になっている。これは一般的な割合からするとどういった割合なのか。

アドバイザー：絵本が充実している割合になっている。こういった割合については、書かないのも１つの方法だと思う。書くとその通りにしないといけないので縛られる可能性もある。しかし、書いておくとその形で進んでいくので意向であるなら、書いておいた方が良い。

図書館としては、やはり開架が重要。今書いてある数字よりも開架を充実したいという意見も、それはそれであり。今の数値は一般的な値ではあるけれど、本棚を高くしたり、書架間を狭くすると、本はたくさん入る。どちらを選ぶかだと思う。

委員長：棚の高さも実際に見てみないとわからない。イメージしにくい。

アドバイザー：やはり最近は本棚を低くする傾向にある。５段は大人の顔が見えるくらい、３段は子どもの顔が見えるくらい。また、書架の間隔も２ｍあけておくと、車椅子が通れる。ゆったりめに作って居心地を取るか、狭く作って書架を多くするのか、それは希望次第なところ。現状、記載の数

値は少しゆったり目の数値となっていると思う。

委員長：物価高騰により、建築価格も高騰しているので、そのあたりとの兼ね合いもあるかもしれない。委員の皆さまとしては、この辺りの数字はいかがか。

委員：妥当な数字なのかなと思う。

アドバイザー：図書の更新をしていくときに考えなくてはいけないのが、資料費。本の冊数が大きく増えると資料費についても大きくなる。今の冊数は、田中委員のおっしゃるように妥当な数字だと思う。本がたくさん欲しいという意見ももちろんあるだろうとは思うが、そのあたりも考えなくてはいけないところ。

委員長：今の段階としては、原案通りという形で進めていきたいと思う。

委員：仕事柄こういった部分が目についてしまうので、申し上げるが、22ページの１行目、愛着を「もつ」とあるが、他は漢字なので「持つ」に統一した方が良いと思う。同じく22ページの（２）の３にある「障害」は、他が平仮名なので、統一した方が良いと思う。23ページに「車いす」とあるが、漢字表記の方が良いと思う。

委員：書架の話があったので、そこに関連して、私自身が本の整理のボランティア活動をする中で感じていることであるが、本棚の１番下の段は、しゃがまないと見えないので利用しにくい。他の図書館で、下の２段が傾いている棚を見かけた。そういったものの取り入れも検討していってほしい。

アドバイザー：傾斜書架のことであると思うが、この本棚、値段が高い。また、書架間が狭くもなるので、導入は検討が必要な部分もある。今は、20cmくらい本棚の下を高くしたものもある。以前は耐震として低くするのが主流であったが、最近はそういったものもある。低い位置は、高齢者にとって使いにくい、しかし、高くすると逆に子どもたちが取りにくい。検討を進めつつ、実際の設計の際に配慮について考えていく必要があるだろう。

委員：図書館で収集する情報に関して、まちづくりに関する情報や地域で発行された資料の収集も進めて欲しいし、収集した情報については閲覧できるコーナーをぜひお願いしたい。区で実施したイベントに関連する情報を図書館の方で発信できると、他の区の方がそれを見て、うちでもやろう！と新たな地域活動に繋がる可能性もある。自治区や町内会で発行されたチラシや資料についても、図書館において収集・発信していってほしい。

委員長：24ページに記載のある郷土資料に、地域の資料を併記するような形も１つかと思う。

アドバイザー：最近では、郷土資料も含め「地域資料」という言葉に包含して統一する傾向がみられる。行政資料も地域資料に含まれるもので、現代的な資料も含めたものとして地域資料と呼ばれることが多い。そのため、郷土資料は地域資料に含まれると考えた方が良く、併記は不自然。郷土資料は愛着や郷土愛に関するものとして位置づけられる面もあるが、含めて地域資料と書く方が良いと思う。

委員：地域の資料や区の資料の保存に関する方針は、図書館として考えていかないといけないものだと思う。ここは、県の図書館としても考えるべき部分ではあるが、全自治体分となると、本当に膨大なものになってしまうので、保存の方針として、町の図書館で保存いただけるのであれば嬉しいと思う。本来、図書館の職員が、公民館等へ出向き、地域の資料等について収集し保存していく形が理想なのだと思うが、図書館の方から能動的に動くことがあまりできない面もある。地域の方とも協力しながら、図書館として保存していく機能を持つことは大切なことだと思う。

アドバイザー：地域資料に関する調査も行われており、全体的な傾向としても、地域の資料に関しては図書館で集める傾向にある。集めることは大変なことではあるが、配布されるチラシも貴重な資源

であるので、方向性の検討は必要だと思う。

委員長：計画書の表記としては、郷土資料のような歴史的資料も含めて地域資料とする形でお願いできればと思う。

私の方からの意見で恐縮であるが、図書館の予定地を示している図に関して、もう少し詳細に記載できないかと思う。広場の位置や郷土館はここにある、といったような情報を加えたり、計画書に出てくる地名や道路名については、分かるように書き加えてもらえるとありがたい。

アドバイザー：24 ページに記載の「しかし～」以降の部分について、この場で記載内容を確認しておくべきだと思う。設計したはいいが、価格高騰により建てられないといったことが、実際に現状として起きている。こういった記載をしておくのは必要な事ではあるのだが、記載する内容や書き方、表現方法については、一定議論を行っておく必要があると思う。私の印象としては、具体的に書きすぎかもなとも思う。また「実施計画」時点ではもう、大きくは動かせなくなるので、もう少し早い段階で検討するというように、記載内容について見直しが必要。もちろん、町のモニュメント的な建物にするのも１つであるし、コストに配慮した建物にするのも、それはそれで方向性としてあり。しかし、実際に、お金がなくて建てられないという事例が起きているので、考えておかないといけない部分であると思う。

委員長：確かに、設計レベルまで進んでいると動かせなくなる。実施計画では遅い。アドバイザーの意見を踏まえながら、表現については、事務局の方で検討いただければと思う。

文言の指摘としては、25 ページに「ノウハウ」が重なっているので、どちらかでいいと思う。修正をお願いしたい。また、文章の最後に、住民説明会等と記載があるが、手法としてシンポジウムの開催等もあると思う。「等」の中に含まれるという解釈もできるので、表現についてはお任せするが、そのあたりも検討していってほしい。

●付属資料部分

委員長：ここについては意見等特にない。間違いの無いように記載をお願いできればと思う。

●その他の意見

委員：前回の会議でも、予算に関して物価高騰等のお話があったので、12 月議会をみたのであるが、議員の方から「図書館に関わる予算について増額申請を行うのか」という意見があり、それに対し、「申請するのであれば、それに関連した改めての議論が必要なため、今のところその予定は無い」という風に回答されていた。この物価高騰の情勢の中で、無駄遣いをしているわけでもなく、必要な金額だとも思う。もし申請して増額が可能なのであれば、そういった形をとるのも良いと思うがどうなのか。

事務局：今回のこの図書館建設は、エリア全体の予算として総額 22 億円が当てられたプロジェクトとなっており、そのなかの１つとしての図書館建設となっている。エリア全体の開発として、22 億円の予算を認めていただいたのち、今の検討が進められている。そのため、まずは、他のエリアの状況を把握して、そことの調整を行っていくのが第一。もし、他のエリアでの予算規模の変更があった際に、その分を図書館に回す等はしていければと思う。そのため、他エリアの進捗や状況を整理したうえで、それでも難しいとなった際には、議会や町民の皆さまに対してお諮りし、議論していければと思う。

委員：22 ページに記載の部分に関連して、カフェを運営していくことは難しいだろうと、前回の会議で

も議論があった。それに関して、カフェありきではなく、旧図書館の場所にレンタルキッチンを作ってみるのも１案ではないかと思う。そこをキッチンカーの人たちも利用できるようになれば、可能性が広がるし、飲食に関する持続性の可能性もあるかなと思う。

副委員長：今の意見に乗る形で意見させてもらえれば、今の図書館の場所は、元は文化伝承館となっていて、色々な活動が行われていた。その場所を交流の場に積極的に使えないかと思っている。また、建設予定地の周りにも、たくさんの建物がある。思源閣・産業展示館・茶室・如心庵、このあたりの施設や建物と図書館がタイアップできると良いなと思う。活用方法について考えていってもらえると嬉しい。

委員：私は、プレイスデザインワークショップの方にも参加させていただいており、ワークショップの中でもたくさんの多様な意見が出ているところ。この会議での意見、ワークショップの意見、それぞれ異なる意見もあるが、似通った意見や関連する意見もたくさん出ている。子ども連れに関する意見として、図書館は静かなところであるが子ども連れでも居心地よく入れる場所であってほしい、という意見や、図書館に赤ちゃんステーションや授乳室が欲しいという意見があったり、おもちゃレンタルできるような子ども用のスペースがあると良いという意見があったり、かぶる意見もたくさん出ている。

会議とワークショップで、アイデアを相互に共有する機会や意見をお披露目する機会は今後あるのかどうか、教えてほしい。

事務局：プレイスデザインワークショップの方には私も出ており、ワークショップを開催している都市建設課も今日の会議には参加しているので、情報の共有という形では、取らせていただいている状況。今後、お披露目のような形が取れるかは未定であるが、この会議での意見をワークショップの方で説明できるような機会は作っていければと思う。課の方とも相談させていただく。

（２） 柴田町新図書館基本構想（案）に係るパブリックコメントについて

事務局より、資料について説明。

４　連絡事項

事務局：次回会議については、2/16 の 14：00 から、会場は同じ保健センターにて実施予定。

５　閉会のあいさつ

６　閉会

以上